

## 卒業式・修了式告辞（平成30年度）

筑後川の空に濃やかな弥生の雲が流れるこの早春の佳き日に、ご来賓の皆様のご臨席を仰ぎ、平成三十年度久留米工業高等専門学校本科第 五十四回卒業式並びに専攻科第 二十五回修了式を挙げてまいりましたことを、卒業生・修了生はもとより、本校教職員一同、まことに光栄に存じます。高壇からではございますが、ご来賓の皆様には厚く御礼申し上げます。

本科卒業生・専攻科修了生の皆さん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。久留米高専での5年または7年の修学期間に皆さんが積まれてきたご研鑽とそれを支えて来られました保護者の皆様のご篤志に深く敬意を表します。

皆さんは、「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」という教育理念のもとに開設されている久留米高専の一般科目及び各専門学科や専攻科各専攻の教育プログラムを見事修了し、栄えある卒業と修了というこの日を迎えられるました。今後は、久留米高専で学んだという矜持を心のどこかに宿し、品位を保ち、堂々と胸を張って人生を歩んで行ってください。

ここで、ご卒業・ご修了に際して、皆さんがこれからエンジニアとして必要となるであろう一つの資質について申し上げたいと思います。それは「美意識」を磨くということについてであります。

気鋭の経営コンサルタントであり、哲学徒でもある山口周さんは、その著作『世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか？－経営における「アート」と「サイエンス」』（光文社新書、2017年）の中で、「不安定」(Volatility)「不確実」(Uncertainty)「複雑」(Complexity)「曖昧」(Ambiguity)、いわゆる VUCA として語られる今日の世界の状況において、ビジネスエリートに求められるのは、「要素還元主義の論理思考アプローチ」ではなく、「全体を直感的に捉える感性と、「真善美」が感じられる打ち（つ）手を内省的に創出する構想力や創造力」だと述べておられます。とりわけ、「美意識」は、イノベーションの結果生ずる市場や企業倫理を考えるうえでとくに重要だとされています。すなわち、山口さんは、「グローバル企業の幹部候補、つまり世界で最も難易度の高い問題の解決を担うことを期待されている人々は、これまでの論理的・理性的スキルに加えて、直感的・感性的スキルの獲得を期待され、またその期待に応えるように、各地の先鋭的な教育機関もプログラムの内容を進化させ、「美意識」を鍛えているということに着目しているのであります。そして、高い美意識によりエンジニアリングの世界で成功を博した事例として、ソニーのウォークマンやアップル社の iMAC、前田育男氏のデザインになるマツダの各車種などを挙げておられます。

優れた感性と審美眼を持ちグローバル企業を育て上げた人は、私たちの身近にもおられます。久留米が輩出した偉大な企業家石橋正二郎さんです。ご承知のとおり、石橋正二郎さんは、タイヤメーカーブリヂストンの創業者であると同時に、西洋や日本の近代絵画の収集家でもありました。石橋正二郎さんの美意識を、私たちは、久留米市美術館（旧石橋美術館）や石橋文化センターの庭園、あるいはブリヂストン美術館（2020年からアーティゾン美術館）の中で感じ取ることができます。

また、久留米の生んだ稀代のエンジニアである井上伝さんが考案した久留米餅も、同じく田中久重さんが発明した数々のからくりも、美しさを伴っていなければ決して歴史にその名を刻むことはなかったのではないかと考えます。

久留米高専は冒頭に触れた教育理念の中に「豊かな心」(Humanity)の涵養を謳い、リベラルアーツ教育を重視し、一般教養科目として美術や哲学系の科目を開設しています。筑後川が醸成する豊かな自然の中で、数々の先人エンジニアの後ろ姿を見ながら、久留米高専で直感力や感性、美意識を磨い

たことは、卒業生・修了生の皆さんが、将来エンジニアとして活躍するうえでの一つの大きなアドバンテージになるものと確信しています。

江戸時代後期、現在の大分県の日田で私塾咸宜園を営んだ教育者、広瀬淡窓さんは、「三訣」を座右の銘の一つとしたと伝えられています。「学問に努め、努力を惜しまず、健康に注意すること」の三つであります（末廣利人『広瀬淡窓』日田市教育委員会，2016年）。卒業生・修了生の皆さんも、将来にわたって、学び、努力し、健康に留意されて、日本で、そして世界で、活躍されて行かれますようお願いしております。ご健闘をお祈りいたします。

平成31年3月15日

独立行政法人国立高等専門学校機構 久留米工業高等専門学校長  
三川 譲二